

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あるはkids平良		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和6年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和6年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動プログラムが固定化しない様工夫している。	・児童の成長に合わせて活動を分けて行ったり、年長さんに活動を引っ張ってもらう等、役割を持つ事で責任感が持てる様に工夫している。 ・多職種で支援に取り組めている。	・児童個々に合わせた活動や、集団で行う活動に幅を持たせられる様、毎月ミーティングを行っている。
2	・定期的に会報やHP等で活動概要や行事予定を子供や保護者に対して発信している。	・法人のブログやインスタグラムで、積極的に情報発信を行っている。	・保護者や相談支援事業所、各関係機関にHPやインスタグラムの周知を行っている。
3	・日々の支援に関して記録をとる事を徹底し、支援の検証、改善に繋げている。	・毎日進行表を作成し、経過記録を個別支援計画に基づいて残している。	・保管している進行表を基に、次の日課を作る様にしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている。	・法人での合同レクや、店舗でのイベント等はあるが、参加率は低いと感じる。	・保護者間の交流の場である事も、案内文書にて記載する。 ・仕事等、参加が難しい方の為に開催頻度を増やす必要がある。
2	・移行支援として、小学校や特別支援学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	・児童発達支援(単独型)で運営している事もあり、小学校や特別支援学校との直接的な関わりはあまりない。	・直接的な関わりはないが、同法人に放課後等デイサービス(単独型)があり、移行した児童は密に連携を取っていく。 ・卒園児に関しては、就学支援シートを作成し、情報提供を保護者を通して行っている。
3	・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子供と活動する機会がある。	・近くの園と活動時間が異なる。	・散歩等を通して、交流を図っていく。